

最近、街を歩いているとよく、首にネッククーラーをつけている人、ハンディファン（携帯扇風機）を持っている人が目に付く。地球温暖化の進行で近年、日本の夏は猛暑が続いている。私が住んでいる北海道でさえも、毎日のように三十度を超える厳しい暑さである。これに加え今年は、台風の影響も大きい。気候変動が激しくなっているのが目に見えてわかる。

このような地球温暖化を防止するため、二〇二四年度から新たに国税が追加されることを知っているだろうか。「森林環境税」だ。これは、「パリ協定」の枠組みのもと、温室効果ガスの排出削減目標や災害の防止などを達成するための国税で、二〇二四年度からは国内に住所がある人から一人千円、住民税に上乗せする形で徴収されるという。日本は国土面積の約七割を森林が占めている。しかし、少子高齢化の進行による人手不足や後継者不足、木材価格の低迷など、たくさんの課題をかかえている。この新たな税について国は、「森林を守ることは国土の保全や水源の保護など国民に広く恩恵を与えるものだ」と説明している。一人当たり千円の負担は大きいなと私は感じたが、こうした課題や私たちへの恩恵をふまえると妥当なのかもしれない。税金を払うことは「未来への投資」と聞いたことがあるけれど、本当にそうだと思う。私たち国民が今、未来へと税を貯めていくことで、未来の環境が保全され、後世へとつながっていくのだ。

そうは言っても、全ての国民が快く税を払うことは困難である。その大きな要因としてあげられるのは、税のありがたみを身近で感じにくいこと。そもそも税についてよく知らない人も多いと思う。私自身も、この「森林環境税」について、これを書くまで一度も耳にしたことが無かった。母に、この税が来年度から始まることを伝えてみても「知らなかった」と驚いていた。したがって税の意義や役割など、情報をもっと発信し、広めるべきだと考える。そして、私たちも、税金は必ずどこかで払って、使っていて、重要なものだから、理解を深め、正しい情報を吸収していくことが大切だと思う。

以上のことから私は、「森林環境税」によって自然や環境が保全されていくことを望む。また、私自身、改めて税金に感謝し、これからの学校生活や日常生活をより大切に、充実させていこうと思った。